

農政時報 全4巻

別冊1

推薦——田中 学

暉峻衆三

別冊——解説(清水洋二)総目次

揃価——60,000円

●復刻の辞

『農政時報』は、大正末から昭和初期の農業恐慌に直面した地主層のうち、近畿地方を中心とする地主が「解明的」な土地解決をめざし設立された大日本地主協会の機関誌である。大正14年12月創刊され、昭和8年12月の協会解散まで全95号が刊行された。

従来、小作爭議の資料は、小作層・小作組合運動を中心として発掘されてきた。しかしその対極の地主サイドの資料は皆無であった。『農政時報』は、この研究の隙をうめる第一級の資料といえる。

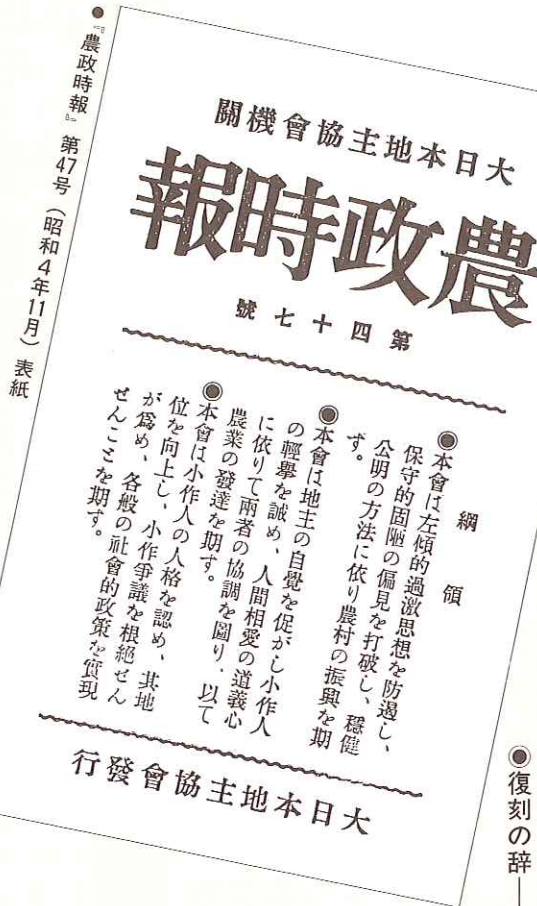
弊社では、この全号を復刻刊行し、日本農業の地主制の研究のみならず、近代史における協調体制の研究の資料として活用されることを望むものである。——不二出版

●全巻の内容

- 第1巻——第1↓30号(大14年12月↓昭3年6月) B5判
- 第2巻——第31↓48号(昭3年7月↓昭4年12月) A5判
- 第3巻——第49↓71号(昭5年1月↓昭6年12月) A5判
- 第4巻——第72↓95号(昭7年1月↓昭8年12月) A5判

〔大正14年↓昭和8年〕

●大日本地主協会機関誌『農政時報』(全95号)の完全復刻!



を伝える資料

田中 学
(東京大学教授)

第一次世界大戦の末期に岐阜、愛知などで多発した小作争議は一九二〇年代に入ると兵庫、大阪を中心とする近畿地方に燎原の火のように広がっていった。当時、ロシア革命の報道に続く米騒動の余燼がくすぶるなかで労働争議も激発した。一九二一年には神戸で有名な川崎、三菱両造船所の大争議が発生した。

農商務省の資料によればその頃大阪市周辺の農村で「地主ト小作人トノ關係ハ資本家ト労働者トノ關係ト全く同一ナルカ故ニ小作人ハ宜シク階級闘争ヲ以テ地主ヲ圧迫スヘキナリ」というピラが撒布されたという。翌一九二二年四月九日には神戸市の基督教青年会館において日本農民組合の創立大会が開かれた。

日農の創立は地主階層に大きな衝撃を与えた。初期の日農は主に小作料の引下げを目指す争議を指導したが、経営収支の分析に裏打ちされた要求書の作成など新しい戦術を用いて大きな成果をおさめた。そのため農民組合の組織されていない村においても、小作人が組合をつくって日農に加入することをほめたただけで地主側があわてて小作料を引下げたというエピソードさえ残っているほどである。

このような農民組合の攻勢は前述した時代背景と相まって地主階層の将来に対する危機意識を著しく増大させた。そこからさまざまな対応が生じて来たが、その一つは日農の組織的攻撃に対しては、地主もまた組織的、階級的に対抗する他ないという考え方であつた。この、日農に対抗するという考えを実行に移したのが大阪を中心に結成された大日本地主協会であり、その機関誌が『農政時報』に他ならない。それはまさに、く時代を象徴する「地主・小作」関係の緊張の産物であり、相対峙する両者の生々しい緊迫感を伝えてくれる貴重な資料である。兩大戦間期の研究者、とりわけ農業・農村・農民運動史等を研究するものにとつては欠くことの出来ないものといえよう。

昭和六年度に於ける農民運動

下河部良佐

一、はしがき

その翌年秋收は、昨年同様の大豊作であつた。一九〇三年の農村が米、麦恐慌状態を脱するに當り、大體の糧食は自給したといふことが、所謂豐作によつて強いられた犠牲を免れた爲の恩恵、感激すべきところである。農民生活の現狀を多岐にするに至らず、常ならぬ農民生活に對して驚歎の聲が聞かれる大豊作が、却つて農村民の生活を上へ善を與り、肉を養ひの悲惨なる生活苦に喘がむる有様を呈せしむるに至つたことは我々の周知する處であつた。

然れど一九一二年の米作事情は昨年と全く異なり北滿鐵道、東北北邊等の生産地をはじめ、全國的に状況が頗る惡く、大正八年以前に於ける十一年までの凶作についで、農村民の生活は度々に困窮狀態に陥つたのである。其の最も甚き地方は度々従来の北海沿岸部縣の如きは、飯米に窮けられざる根を掘つてこれが代用食せざるべし、農民民の生活は實に悲惨な極まつたものである。

こゝに我々は、昨年度より昨年度にかけての所謂閉鎖的農業恐慌論——豐作恐慌論より凶作恐慌論——により何を知らねば可い。

目次抄録

創刊号（大正14年12月）

地主の本領（論説）／地主協会の使命（論説）／伏石
事件の真相（彙報）／土地明渡請求事件（判決事例）／
思うが儘を（雑録）／大日本地主協会の設立（雑報）

聖上親しく御稻刈を遊ばさる

小作法に関する陳情書

米価問題に関する陳情書

〔論説〕 小作法案に対する主張
〔彙報〕 米穀調査会特別委員会

戦前期における地主側の資料

暉峻衆三
(宇都宮大学教授)

大正後期から昭和のはじめにかけての時期は、「戦前期」日本の歴史のなかでもとりわけ注目すべき大きな曲り角だった。農業問題の点でもそうだった。

第一次世界大戦を契機に飛躍的經濟發展をとげた日本で、それまで社會の底辺にあつて黙々と働きつづけてきた「貧民」、勤勞大衆がはじめて歴史の舞台に登場してきた。労働者や小作農民は階級的にめざめ、困難な条件下に結集し、その要求をぶつけ、爭議を敢行した。それに対抗して、資本家や地主も階級的に結集した。「明治的状况」は終わりを告げ、「大正デモクラシー状況」がほころびてきた。これを転機に、日本の高價現物小作料、地主的土地所有制度も後退しはじめた。

昭和に入るとともに、日本は大恐慌にみまわれ、労働者や小作農民は窮乏化する。また、日本の特徴として多数存在した中小資本家や中小地主層も恐慌下に経済事情が極度に悪化した。こういった状況下に、労働者、地主小作間の矛盾は尖鋭化し、深刻な争議が多発した。こういった閉塞的状态を軍部が利用しつつ、「満州事変」を契機に、矛盾を対外的に「処理」すべく日本の侵略とファシズム化が開始された。

この大正後期から昭和初年にかけての歴史の大きな曲り角こそ、近畿を中心とする西日本の地主層の団体である大日本地主協会が設立され、活動を展開し、またその生涯の幕を閉じた時期であった。

この歴史の曲り角の小作・農業問題を、主として小作層や小作組合運動の動向と関連させて説明しようとした研究はかなり多い。だが、それを地主サイドからおこなおうとした研究は意外に少ないといっている。

このたび復刻されることとなった、大日本地主協会の機関誌である『農政時報』には、この段階の地主層の小作争議対策（訴訟提起・土地会社設立・請負小作制採用など）や不況対策、「小作法案」や「小作調停法」の改訂要求など地主層の各種農政活動についての貴重な記事が数多く収録されている。『農政時報』の復刻は、従来手薄であった地主サイドからのこの段階の照射に資するものとして、その刊行を心から歓迎したい。

激化する小作爭議

平和な周囲の日、熊を得て
の農夫の妾、樂しい晩餐をつ
さひ、ミローの橋によろある
使の去りぬ牧場の農村は、
歐洲大戦、昭和四年以後に、農業
恐慌を通じて、今や急速に
陰惨なる悲劇的な變遷にあ
つてゐる。小作爭議は、大
大々化が何よりよくその雄
辯に物語つてゐる。

	昭和三平	一、八六六件
	同四年	二、四四八件
	同五年	二、四三八件
	同六年	二、六八九件
	同七年上半年	一、六二二件
	同上下半年	一、五三三件

爭議件数の増加と共に、地域の
拡大しづけるものも、初め特權地
域に限られたものが、今や全國的
である。歐洲大戦後は、
争議件数の多い地方は、遠く東
北地方から、東北、関東、中部、
近畿、四国、九州と、次第に増
加を重ねた結果である。

◇

争議の規模に點しても最近幾
年間の擴張は、いさゝかしい程
の一線を示してゐる。「一言
にしてしまへばそれは、爭議規模
の小細化である、即ち一方當事
者の参加人員および昭和十三年
七月以前のもの」を以てする、も
う七七年間を示してゐる。この基
本的趨勢は、僅かに逆行し、参
加人数、即ち地面面積、特に
田の面積が増加したが、これは
古い前年の因習による感嘆
的現象を見るべきであらう。

◇

かくして小作爭議は、量的に
むしろ縮減されたのみならず、
一方において注目すべき

〔雜録〕 耕地価格の下落／農村の窮状／公平な小作料

第95号 (昭和8年12月)

廃刊の辞（高落松男）

〔論說〕 農村問題遂

と米穀統制法（東京）

〔雜録〕 農村対策の

耕作植確立力／小

作米は地主の倉庫へ／永久四割減免に決裂の危機
小作米を税金代に差押へ／府県聯合幹部会

日本近代農政史料集成

① 農山漁村経済更生運動と小平権一 楠本雅弘編・解題 B5判・上製 12、000円

② 山形県農地改革史 及川四郎・柏倉亮吉・山崎吉雄編 A5判・上製 4、500円

③ 恐慌下の東北農村 全3巻 楠本雅弘編・解題 B5判/A5判・上製 揃30、000円

④ 東北振興計画集覧 全3巻 楠本雅弘編 B5判・上製 揃38、000円

⑤ 広島県農会史 昭和6年11月 広島県農会刊 A5判・500頁 定価9、000円

⑥ 三重県農会史 昭和17年9月 三重県農会刊 A5判・1170頁 定価19、500円

⑦ 兵庫県農会史 昭和5年6月 兵庫県農会刊 A5判・468頁 定価8、500円

⑧ 岡山県農会30年史 昭和5年11月 岡山県農会刊 A5判・280頁 定価5、500円

⑨ 山口県農会史 昭和8年5月 山口県農会刊 A5判・602頁 定価11、000円

⑩ 福井県農会史 昭和8年11月 福井県農会刊 A5判・534頁 定価9、500円

●以下続刊—

大鎌邦雄
解説付

日本近代農政史料集成 ⑮⑯

農政時報 全4巻・別冊1

●大日本地主協会機関誌 (大正14↓昭和8年)

●解説—清水洋二(拓殖大学助教授)

●概要—B5判・A5判・総2、494頁

●別冊—解説・総目次・索引

●揃価—60、000円

不二出版

東京都文京区本郷五―二八―三三
電話〇三―八二―四四三三
FAX〇三―八二―四四六四
振替(東京)六―九四〇八四